

特集

約束の道

あすみ
大村朱澄・努力でつかんだロンドン行きの切符

外で遊ぶのが大好きな、小柄な女の子

小学2年生の時に出会ったのは

「カヌー競技」という世界だった

真っ直ぐに前を向いて進んでいけば、

きっと「夢は実現できる」と信じ続けた

14年の時が過ぎ

小さな女の子は、やがてオリンピック選手になった

「大村朱澄・22歳」

スポーツ選手なら、誰もが夢見る大舞台

8月の本戦を見据え、

朱澄さんは今、何を思う—

大村朱澄（おおむらあすみ）

平成元年11月11日生。本町田代出身。川根高校卒業後、早稲田大学に入学し現在3年生。平成15年に結成された本川根カヌーレーシングチームに小学2年生から所属。中学時代は全国中学生大会で2年連続優勝。高校時代は国体に県代表として出場し2連覇。ほか全国高校総体を含む全ての大会で優勝を飾る活躍。先ごろ開催された第16回アジア競技大会カヌー競技では銀・銅メダルを獲得。ロンドンオリンピック・カヌー競技日本代表。

プロローグ「回想」

ロンドンオリンピック出場枠を賭けたアジア最後の戦い。ゴールを見つめる朱澄さんの脳裏には「自分が枠を勝ち取るんだ」というイメージしかなかった。静寂の中、号砲一発。しかし、会心のスタートダッシュを決めたのは、隣を行くウズベキスタンの選手だった。「思い描いていたのとは全然違うレース展開になってしまつて…。一気に出られちゃつたんです。『ちよつとまらずいな』つて…。でも、焦りはありませんでした。もちろん余裕はなかつたんですが、漕いでいる感触は悪くなかつたし、『ゴールでは私が前にいる！』つてイメージしありませんでしたから。たとえ遅れをとつても、ラストパートで必ず追いつけるつて思っていたんです—」。

そのイメージ通り、250mを過ぎた辺りから朱澄さんはスピードを上げ、ゴール手前で疲れの見え始めたウズベキスタン選手を一気にかわした。そのまま2着でゴール。1着の中国選手が、先に開催された世界選手権で枠を獲得していたため、朱澄さんは繰り上がりでロンドンへの切符を勝ち取った。「とつても、とつても重要なレースだつたんですが、臆することなく落ち着いてレースを運ぶことができました。今の自分が持つ力を全て出し切れたと思います。イメージの持ち方だったり、レースとの向き合い方だったり、今までの経験が私を助けてくれました。『オリンピックに行けるんだ』という達成感でいっぱいでした—」。